



帯広市などに
車いすを寄贈

宮坂建設工業
【帯広】宮坂建設工業（本社・帯広、宮坂寿文社長）は18日、帯広市に車いすなどを寄贈した。写真。宇佐美恭広副社長や加藤兆基事務らが市役所を訪れ、米沢則寿市長に目録を手渡した。同社の車いすの寄贈は2008年から継続している。廃品回収のリサイクル制度でたまったポイントを活用し、帯広市と札幌市、釧路市に3台ずつ贈っている。今回は、10回目を記念して車いすのほかにタブレット端末を合わせて寄付した。車いすはおびひろ動物園と明治北海道十勝オーバル、とかちプラザに配置する。タブレットは高齢者福祉課で管理し高齢者向けの講習会に使う。宇佐美副社長は「今後とも未永く続けていき3市に貢献していきたい」と話していた。

つ贈っている。今回は、10回目を記念して車いすのほかにタブレット端末を合わせて寄付した。車いすはおびひろ動物園と明治北海道十勝オーバル、とかちプラザに配置する。タブレットは高齢者福祉課で管理し高齢者向けの講習会に使う。宇佐美副社長は「今後とも未永く続けていき3市に貢献していきたい」と話していた。

各企業等の社会貢献

車いすとiPad各3台を寄贈

福祉の充実に役立てて
宮坂建設工業が帯広市に



左から武山総務部長、宇佐美副社長、米沢市長、加藤事務

【帯広発】宮坂建設工業（帯広、宮坂寿文社長）は18日、社会貢献の一環として、帯広市に車いす3台とiPad3台を寄贈した。宇佐美恭広副社長らが市役所を訪れ、米沢則寿市長に目録を贈呈。米沢市長は、社会福祉の充実に役立てることを約束した上で、宇佐美副社長に感謝状を手渡した。

同社では、平成20年から廃品回収業者のリサイクルポイント制度を利用して車いすと交換。地域への恩返しのため、帯広市のほか、支社・支店のある札幌市、釧路市に毎年3台ずつ車いすを寄贈している。これは十年目の節目となることから、例年の車いす3台に加え、iPad3台も寄贈することとした。当日の贈呈式には、宇佐美副社長、加藤兆基事務、武山純総務部長が出席。市の幹部職員らが見守る中、宇佐美副社長が米沢市長に目録を手渡し、米沢市長からは感謝状が贈呈された。米沢市長は「本市の社会福祉の向上に大きく寄与するもの。市民から需要の高い車いすを毎年寄贈していただき、大変ありがたく思う。宇佐美副社長は「いつも大変お世話になってるので、少しでも貢献できればと思っている。今度とも未永く続けていきたい」と話した。

なお、今回の3台を含めた帯広市への寄贈台数は三十台。札幌市、釧路市も合わせると九十二台にのぼる。帯広市では、おびひろ動物園、明治北海道十勝オーバル、とかちプラザで利用する予定。iPadは、高齢者福祉課で管理し、講習会等で活用することとしている。

車椅子役立てて
建設会社が寄贈

■帯広

宮坂建設工業（帯広）は、車椅子3台（約23万円相当）とタブレット端末「iPad（アイパッド）」3台（約12万円相当）を帯広市に寄贈した。写真。宇佐美恭広副社長は市役所で米沢則寿市長に目録を手渡し、「福祉のために役立ててほしい」と述べた。



同社は建設現場で発生した鉄くずなどの廃材をポイント換算して物品と交換する仕組みを活用し、毎年車椅子を寄贈。10回目となる今回は18日に贈り、アイパッドを新たに加えた。車椅子はおびひろ動物園、明治北海道十勝オーバル、とかちプラザで利用客向けに活用する。アイパッドは高齢者向けのタブレット操作講習会で使う予定。（長谷川史子）